



夢風

YUMEKAZE

第125号（令和2年度 No.3）



みなさん、夢風ようこそ。

2年生の修学旅行は、例年であれば10月に実施しています。しかし、現在海外に出かけられる状況にないため、今年度は台湾への修学旅行を中止しました。国内に目的地を変更し、1月に長崎へ行く予定です。

また、例年は3日間の日程で行っている学校祭は、1日間に短縮し、11月5日（木）に実施します。制約の多い日常生活を強いられている生徒たちに、なんとか思い出つくりの機会を…というのが、教職員の共通の思いです。

部活動の大会も再開されています。女子ソフトテニス部は新人体育大会西三河予選会において優秀な成績を収め、団体・女子個人ともに県大会への出場を決めました。県大会は10月31日（土）に個人戦、11月1日（日）に団体戦が行われます。これまでの練習の成果を存分に発揮し、上位入賞を目指してください。

今年度は、豊田市内の公立高等学校・特別支援学校・高等専門学校15校が学校生活の様子や特色ある取組などをアピールする「魅力発見フェスタ」も中止となりましたが、ひまわりネットワークで「豊田市高等学校魅力発見フェスタ2020 魅力発見 キミへとどけ！」が放送されます。東高校の放送日は10月17日（土）、10月22日（木）、10月27日（火）の18：30です（同一内容です）。中学生から高校生への質問コーナーもあります。ぜひご覧ください。



「夢風」はWebページでも発信しています。 <http://www.toyotahigashi-h.aichi-c.ed.jp>



ニュース

News



● プラン別説明会（1年生）

8月18日（火）始業式に、1年生に向けて3年生によるプラン別説明会が行われました。

1年生は、「産業社会と人間」の授業を通じて将来のことを考え、6月に科目選択予備調査を行いました。その後、6・7月に行った「学部・学科研究」や保護者を交えた三者面談により進路に関する考えを深めていきました。新型コロナウイルス感染症防止対策のため、毎年実施している「企業・キャンパス見学」には出かけられませんが、自分が興味ある分野について調べることで、より主体的に進路選択に向き合うことができました。



その上で、今回のプラン別説明会では、各プランの授業で実際に行われている実習内容や製作物を3年生に見せてもらったり、質疑応答で疑問を解決したりしました。「美術プランの先輩の作品が、とてもリアルに描かれていてびっくりした。自分もそうなれるよう頑張りたいと思った。」などの声があがりました。今回の説明会は、プラン選択をより確実にを行うためのよい機会となりました。

● 豊田市こども発達センターボランティア・交流活動

夏季休業中、心身障がい児総合通園施設である『豊田市こども発達センター』にてボランティア・交流活動を4日間（8月4日から7日まで）実施し、保育・福祉・看護プランの生徒を中心に計43人が参加しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度よりも短い日程ではありましたが、生徒たちは限られた時間の中で多くのことを学びました。子どもと一緒に遊ぶだけでなく、読み聞かせの実演や子どもの抱っこ、おむつ交換など、普段はできない体験をしました。



保育プランの生徒は、授業で学んだことを活用できる時間にもなりました。参加した生徒からは、「腕が痛くなるなどの疲れることもあったが、体験しないと分からないことが学べてよかった。」「とても不安だったが、最後には膝の上に乗ってきてくれたことがとても嬉しく、子どもと接することのやりがいを感じた。」などの声があり、貴重な学びの機会となったようでした。

● 地域連携・活性化企画「アマビエ様に願いを込めて」

9月21日（月・祝）、イオンスタイル豊田で「アマビエ様に願いを込めて」のイベントを行いました。これは、新型コロナウイルスの収束を願い、非営利組織 IPPO CLUB と本校のJRC部が企画・運営にあたったイベントです。ペットボトル約350本を使ってJRC部が作った高さ2mのアマビエ像を1階フードコート脇に置き、来店した子どもたちが色を塗ったぬりえや、ウイルス収束への願いを書いてもらった短冊を貼り付けていき、アマビエ像を完成させました。また、スタンプラリーも実施し、多くの子どもたちが楽しく参加していました。JRC部員からは「コロナ禍の中でボランティアの機会がなかったけれど、久しぶりに幅広い年代の人と接することができてよかった。」「準備や運営などを全て自分たちでやったのでとても大変だったが、多くのことを学べた。」などの感想が聞かれました。このアマビエ像は、10月中旬までイオンスタイル豊田に展示され、その後学校祭まで校内で展示される予定です。



保育プランの生徒たちは、3階「まいまいルーム」にて、来店した子どもたちに向けて、手遊び歌や絵本・紙芝居の読み聞かせを実施しました。恥ずかしがっている子どもたちに対し、目線を合わせて積極的に話しかけた結果、帰り際にはハイタッチができるほど心を開いてくれるようになりました。地域の子供たちと関わるイベントの多くが中止となっている状況だったので、とても貴重な機会となり、生徒たちは多くのことを学びました。「自分の行動に対して

子どもたちが笑ったり反応したりしてくれて、すごく嬉しかった。」「子どもたちは一人一人違うので、様子をよく見て、反応を見ながら進めていくことが大切だと思った。」などの感想が聞かれました。今回は、2・3年生が一緒に参加したため、2年生は「先輩の子どもとの関わり方や読み聞かせの表現方法がすごくて、自分も同じようにできるようになりたい。」と感じた生徒が多かったようです。授業やこれからの地域交流、将来の進路へと生かせるよい経験となりました。

